# **助成事業完了報告書**

日本財団　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　　 　　　　　　　　　　　 　　　　　　報告日付：２０１６年４月８日

会長　笹川陽平　殿 　　　　　　　　　　 　　　事業ID：２０１４２３６３５２

|  |
| --- |
| 事業名：出張型労働災害リアル体験教育 |
| 団体名：(一社)日本造船協力事業者団体連合会 |
| 代表者名：会長　山口謙吉 |
| TEL：０３－５５１０－３１６１ |
| FAX：０３－３５０２－５５３３ |
| 事業完了日：２０１６年３月３１日 |
| 事業費総額：50,243,808円 |
| 助成金額：40,195,000円 |

## **事業内容**

1. **労働災害リアル体験教育レギュラープログラム**
2. 開催期間：2015年7月9日～2016年2月3日（20回実施）
3. 内容：受講者のいる造船所の構内へ教育に必要な機材・設備を専用トラックで搬入し、教育を実施するもので、専門インストラクターが下記の労働災害リアル体験を指導する。今年度は計17ヶ所（延べ20回）

1,３００名が受講した。

※7月16日（木）「ｼﾞｬﾊﾟﾝﾏﾘﾝﾕﾅｲﾃｯﾄﾞ(株)津事業所協力会」は悪天候のため中止。

1. 感電体感
   * 低圧電気で感電体感し、電気の特徴を知る
2. バランス体感

* バランス治具に乗り左右のバランス感覚を体感する
* 一本橋歩行を体感する

1. 高所危険体感

* 垂直梯子などを昇降する時、3点支持の重要性を体感する
* 未固縛の足場板に乗り移り天秤状態を体感する

1. 火傷実験

* 作業服（綿１００％生地）の空気中と酸素を含んだ状態での燃焼実験
* 作業服（化繊６５％、綿３５％生地）の空気中と酸素を含んだ状態での燃焼実験

1. 爆発実験

* 切断・加熱作業時、着火不良、失火による爆発実験

1. 飛散実験

* 塗装スプレーガンの取扱い不良による危険実験

1. 燃焼実験

* 塗装作業時における溶剤の燃焼実験

1. 酸欠・換気実験

* 半自動溶接作業と酸欠と換気に関わる危険実験

1. 保護具の体感・実験教育

* 防じんマスク、耳栓、保護帽、安全帯（胴ベルト型・フルハーネス型）、安全靴、革手袋、　　　　　　保護めがね、遮光保護具

※①～⑨の所要時間　　3.5時間

1. 対象会員名・実施場所・日付・受講者数
2. 東北ドック鉄工株式会社　：　宮城県塩釜市北浜4-14-1

7月9日(木)　受講者38名

1. 南日本造船協力事業協同組合　：　大分県大分市大字青崎3-1

7月22日(水)　受講者62名

1. 協同組合三菱広島協力会　：　広島県広島市中区江波沖町5-1　江波工場

8月20日(木)　受講者87名

1. 協同組合函館どつく室蘭協力会　：　北海道室蘭市祝津町2-144

8月26日(水)　受講者45名

1. 函館どつく安全衛生協力会　：　北海道函館市弁天町20-3

8月28日(金)　受講者52名

1. MES-KHI由良協力会　：　和歌山県日高郡由良町網代193-4

9月2日(木)・3日(木)　受講者101名

1. ｼﾞｬﾊﾟﾝﾏﾘﾝﾕﾅｲﾃｯﾄﾞ横浜協力会鶴見支部　：　神奈川県横浜市鶴見区末広町2-1

9月15日(火)　受講者64名

1. 川重坂出事業協同組合　：　香川県坂出市川崎町１

9月25日(金) 受講者79名

1. 佐伯プラント船舶事業協同組合　：　大分県佐伯市鶴谷町2-5-37

9月29日(火) 受講者68名

1. ｼﾞｬﾊﾟﾝﾏﾘﾝﾕﾅｲﾃｯﾄﾞ舞鶴事業協同組合　：　京都府舞鶴市字余部下1180

10月8日(木) ･9日(金) 受講者153名

1. 株式会社メタルワンスチールセンター四国　：　香川県丸亀市蓬莱町17-1

10月17日(土)　受講者80名

1. 本田重工業協力会　：　大分県佐伯市大字鶴望坂ノ浦5026-1

11月5日(木)　受講者71名

1. 大西造船関連工業協同組合　：　愛媛県今治市矢田甲185

11月10日(火)　受講者90名

1. トヨシップ事業協同組合　：　愛知県豊橋市明海町22

11月14日(土)　受講者75名

1. 臼杵造船事業協同組合　：　大分県臼杵市大字板知屋1-12

11月19日(木)　受講者66名

1. 旭洋造船株式会社協力会　：　山口県下関市卸新町9-3

11月25日(水)　受講者53名

1. ｼﾞｬﾊﾟﾝﾏﾘﾝﾕﾅｲﾃｯﾄﾞ横浜協力会磯子支部　：　神奈川県横浜市磯子区新杉田町12

2月2日(火) ･3日(水)　受講者116名

## **事業目標の達成状況**

* **出張型労働災害リアル体験教育**

**（１）労働災害の抑止効果**

当事業は、２００９年～２０１１年まで実施していた出張型災害疑似体感教育、そして、２０１２年～２０１４年度まで実施していた出張型災害再現実験教育の後継出張型体感型教育として、造船業向けに開発したものです。当プログラムの内容は、これまでに助成事業で実施してきた「体験型」と「実験型」の教育を融合させた究極の体感型の教育となっている。具体的には「体験コーナー」「実験コーナー」の双方の設備を大型ユニック車両にすべて搭載し、現場で設営実施するものであるが、特に設備については造船現場を強く意識した造作となっており、現場のリアリティーを受講者に感じて受講いただくために疑似現場を高い次元で再現している。

実施内容については、「造船業安全のプロ」と「体感型教育専門機関」が近年の造船労働災害トレンドを研究しながら、２年間の歳月をかけて開発したものである。

さらに災害から身を守る最後の砦である「保護具」についても、体験的要素を取り入れたレクチャーコーナーとしてメニューに取り入れた。

災害発生率においても当教育受講者は度数率・強度率が非常に低く抑えられ、労働災害の抑止効果が数値で実証されている。

　※度数率とは、 100万延実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で、災害発生の頻度を表す。

　※強度率」とは、 1,000延実労働時間当たりの労働損失日数で、災害の重さの程度を表す。

**（２）当会の教育の高い信頼性**

「災害再現実験教育」から、体験型教育のエキスパートである「日鉄住金ビジネスサービス鹿島」と造船業の安全のプロである「安全衛生アドバイザー鈴木滿氏」が教育内容の監修を担当しており、造船現場の作業者にわかり易い内容となっている。また本教育は、教育機材を、より造船現場に近い造作にして製作した。さらに、災害から身を守る最後の砦である「安全保護具」についても、体験してもらう教育をメインにし、熟練した保護具インストラクターに担当させて完成度の高い教育を実現した。

**（３）オリジナリティのあるプログラムによる認知度の向上**

当事業の教育プログラムは完全なオリジナルであり、インパクトの強い教育の内容は、安全専門誌や業界紙に数多く取り上げられるなど反響は絶大である。また、近年の当会が実施する体験型教育の影響により、体験型施設を敷地内に設ける「元請造船所」や「地域造船技能センター」等の類似施設が多く見られるようになった。このように体験型教育は造船業界の現場安全教育の主力となりつつあり、当事業の波及効果は絶大である。そうしたなかで当会は年々内容を追加・修正を繰り返しながら体験型教育を実施してきた。このような事業実績より当会は体感型教育について先駆者的な評価を得ており、業界における団体としての認知度の向上に大きく貢献している。今年度は、「国土交通省」及び、「厚生労働省」から後援をいただいている関係で、現地の労働基準監督署からも多く事業視察に来られており、行政からも支持される体験型教育となっている。

## **事業成果物**

1. **出張型労働災害リアル体験教育レギュラープログラム**

* カリキュラム
* 実施写真
* 2014年度出張型災害再現実験教育の成果
* 2015年度パンフレット**（別添）**

※各回の内容は写真付きでＣＡＮＰＡＮブログ「安全ひろば」で公開済み